

事業No.	8	事業名	敬老祝金	担当課	高齢者支援課
仕分け結果					
廃止		民営化	市(要改善)	7	市(現行どおり)
主な意見(委員)					
<p>【市(要改善)】— 全員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続は必要と思うが、年齢は88歳と100歳でもいいのではないか。経過措置も必要であり、100歳は1万円でもいいと思う。 ・気持ちなので、金額・年齢ともに見直しがよい。メッセージカードやタオルなど、お金以外のものでもいいのでは。 ・80歳はやめてもいいのでは。例えば88歳は8800円、99歳9900、100歳10000円など、金額は語呂合わせでもいいと思う。 ・近隣市の比較を見ても我孫子市は手厚い。社会情勢を考えると見直しが必要である。見直しの際は、現給保障を視野に入れるべき。 ・80歳は廃止してもいい。88歳と100歳の廃止も思い切って考えてみてはどうか。高齢者の見守りという意味では、メッセージカードなどの配布は残しておいた方がいい。廃止したとしても、財政状況が厳しいため高齢者にも負担してもらっているという若者へのアピールにもなるのではないか。 ・祝金は維持してもらいたいという気持ちはあるが、高齢化の進展や財政状況を考えると見直しをせざるを得ない。 ・平均寿命が延びる中、財政状況が厳しい中では、80歳はやめてもいい。88歳と100歳は現行どおりでいいのでは。 <p>【参考意見(当日出席できなかった委員)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敬老事業として一定の意義はあるが、「高齢者福祉の増進に寄与すること」を事業目的とするのであれば、個人への金銭給付ではなく、介護保険事業、高齢者の生活支援、高齢者支援の施設・環境の整備・助成の充実に注力すべきだと考える。ただ、敬老事業としては、高齢者への「表彰」を継続してもいいと思う。 					
傍聴者の意見・感想					
<p>【傍聴者の意見・発言】</p> <p>なし</p>					
市の方針					
対応方針	検討内容				
市(要改善)	<p>長年にわたり社会に貢献されてきた高齢者に対し、長寿を祝福し敬老祝金を贈呈する本事業の意義は高いものと考えています。</p> <p>しかし、前回の見直しから約10年が経過し、平均寿命の延伸など社会情勢等も変化していることから、近隣市の状況や民生委員等からの意見も参考に見直しを行い、平均寿命を下回る敬老祝金贈呈対象年齢「80歳」を廃止します。施行時期は、4月を想定し、条例改正案について令和2年第1回定例会(3月議会)への上程を予定します。</p> <p>なお、廃止する80歳の敬老祝金に係る事業費については、子どもたちへの支援策に活用します。</p>				